



# のびのび

2020年度校長室だより 第7号 令和2年11月12日

湯田小学校のキャッチフレーズ：あしたも会おうね 温かい学校 ～ 学び合い ～

2020年度チャレンジ目標：湯田小ABC 合い言葉：やさしい言葉がひびきあう

## 集える喜び

校長 伊藤 豊



去る10月31日(土)は、土曜参観日でした。新型コロナウイルス感染拡大を防止するために、1学期は参観日を設定することができませんでした。2学期に入り、9月も大型台風襲来に備えて中止したため、今回が本年度最初の参観日となりました。とはいえ、相変わらず新型コロナウイルスに対しては、感染防止策をとらねばなりませんので、今回は2校時と3校時で授業公開学級を分けるという方法をとりました。当日は、天候にも恵まれ、朝から多くの保護者の方々にご来校いただきました。

1年生は、入学式以来の参観でしたので、写真のように廊下は多くの皆さんで熱気にあふれていました。当日は、これまでの各学年の教育活動の様子を画像でもご覧いただきました。また、本校の学校運営協議会委員の皆様にも、児童の様子や教員の指導の様子を参観していただきました。普段登下校で見かける児童が教室で学ぶ姿やスポーツ少年団活動で見せる姿とは違う姿を参観され、一生懸命学んでいる様子に感心されていました。3学期は、1月に人権教育参観日を予定しています。寒い時期ですが、それまで感染症対策をしっかりと継続し、また、多くの皆さんにご参観いただきたいと思います。



## コミュニティ・スクールのすばらしさ

11月6日(金)、本校運動場を会場に「米作り感謝の会」を5年生が開催しました。地域の方の力を借りて本年度も米作りを体験することができました。その収穫した新米を炊いて、お世話になった方々へ感謝の気持ちを表すための会です。本年度5年生は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、9月に秋吉台青少年自然の家で行う予定だった宿泊学習(自然教室)を中止しました。代替行事として、去る10月16日(金)に鍛錬遠足(総行程約15Km)を実施し、目的に向かってがんばり抜くこと、達成した喜びを5年生は味わいました。

今回の活動では、自然教室で経験する予定だった野外炊事を、規模と場所を変更して学校の運動場で行うことにしました。総合的な学習の時間に取り組んでいる、米作りにて収穫した新米の炊飯をメインとした取り組みです。





本校は、コミュニティ・スクールとして日頃から湯田地域の全ての皆さんに愛され、お世話になっています。今回の野外炊事体験の実施について、地域コーディネータさんへ相談したところ、湯田地区食生活改善推進委員さんや学校運営協議会委員でもある湯田地区町内会連合会長さん達が、炊飯方法の事前確認や薪の準備、炊飯釜の蓋の修繕まで行ってくださいました。用いる新米についても、田植えから稲刈りまで手厚くご指導いただいた皆様のお力添えがあって、準備ができました。



運動場で薪に火をつけ、かまどで炊飯する体験は多くの子供たちにとっては初めてでした。薪の焦げるにおいと煙や熱気は新鮮だったようです。また、しばらくして湯気が立ち始めると、釜の中が気になって仕方ないようでした。昔から「赤子が泣いても蓋とるな」というように、指導をいただきながらじっとがまんしました。用意された寿司桶に炊きあがった新米が広げられると、辺りに新米の香り、おこげの香ばしい香りが広がりました。炊きたての新米を頬張る全員が笑顔になりました。この

活動の様子は、TVニュースで流れたり新聞にも掲載されたりしましたので、多くの皆様もご存知かもしれません。

この活動を振り返ってみますと、おそらく学校だけでは実現が難しかったと考えます。「こんな教育活動を考えているのだけれど…」と相談したところ、「こんな方法がありますがどうでしょう。」と提案していただける幸せ。お力を貸していただけるせめてものお返しに、元気はつらつの子供たちの姿をご覧いただき、元気のお裾分けをする関係。子供たちをこよなく愛してくださっているこうした湯田地域の方々に心から感謝申し上げます。これからも、子供たちの輝く笑顔をたくさん生み出すべく努力して参りますので、湯田地域すべての皆様にお支えいただければ幸いです。



来る11月27日（金）の午後から、6年生が湯田中学校の先輩方とともに校区内でVS活動（奉仕活動）を行います。日頃お世話になっている湯田の街を、感謝の気持ちを込めて美しくしたいと考えています。姿を見かけられましたら、ご声援をお願いします。



余談です。薪で焚いた羽釜の底は、当然すすだらけ。釜の中もおこげがこびりつきましたので、釜洗いが一苦労でした。係の子供たちは、5年担任と交代しながら磨き上げていきました。こうした苦労を体験できたのも本当によかったと思います。